

静岡児童合唱団特別演奏会～源流から大海へ～を終えて

高2 平松真生子

今回の演奏会は、私にとって自分を試す場として、そして自分の弱さを見つめて振りはらう場として、とても良い機会でした。当日も勿論ですが、それまでの過程で、私自身が鍛えられたなと感じます。

少し振り返ってみると、最初はグレゴリオ聖歌の読み方から習って、ただ新鮮でした。しかし菅野先生のレッスンを初めて受けてみると、改めて、いつもの自分がどれだけ先生に支えられているかが良く分かりました。菅野先生がよく分からないレッスンを受けていて、あっという間に自分が飲み込まれてしまいました。本当にショックでした。「何をやっても人並みに出来る」という心の隅のおごりが、知らず知らずのうちに菅野先生のレッスンなど、大きな練習の前に積んでおくべきだった小さな積み重ねを無にしていました。この事は、他の日のレッスンでも、“るくる”のコンサートの日も感じました。そんな時に先生から、「先を見据える」事を教えて頂きました。

私も高校生になり、だんだん受験がリアルなものとして感じられるようになってきました。すると、やはり目を背けたくなる時もあり、そうして自分に負けてしまうと、目の前の事だけになり、結果的に前が見えなくなっていました。そんな時に、「自分の最終目標をいつも見据える」ように教えて頂きました。勉強するのは、「やれ」と言われるからではなく、「自分が進みたい方向に進むため」。音楽を続けるのは、ただ楽しいからではなく、「自分のモチベーションを保つため」。このように自分で自分の行動や精神を管理する事が、私には大きく欠けていました。

そして、「モチベーション」という言葉をもたらしたように、二人のお姉さんから本当に色々な物をもたらしました。5月まではいて下さるので、今のうちに見習いたい事をしっかり吸収したいです。本当に二人のお姉さんがいて、私は幸せでした。5月が過ぎると、私が二人の役を引き継がなければなりません。いきなりは無理ですが、私らしく、一年間自分と戦って頑張りたいです。

話をもとに戻し、3月から当日までの事についてですが、もう本当に恥ずかしいです。「子供だから」と言われてしまうと終わりなのですが、先生があれだけ口を酸っぱくして、注意を促して下さったのに、発声まで崩してしまった自分に腹が立ちます。特に26日の練習では、自分の精神がこんなに容易く乱れてしまうものなのかと、ゾッとしました。でもそれから当日まで、先生方が本当に親身になって、発声を直して下さったり、心を整理して下さり、本番、あれだけの演奏が出来たのは、先生のお陰です。本当にありがとうございました。

ところで、毎回コンサートの度に思うことがあります。一つ目は、先生にオムツを当ててもらうのではなく、自分で良い状態にもっていきたい、という事。そして二つ目は、練習の時にもっと本番の緊張感で出来れば本番がもっと良くなる、という事です。なかなか実行することが出来ませんが、これからも忘れないようにしたいなと思うのは、その時だけ、歌の時だけ実行しようとするのではなく、日常生活すべてにおいて、モチベーションを保つよう、努力していききたいという事です。この事が、私の高2での目標でもあります。今年一年、ひとつクリアしたら、また次へというように、自主的に上を目指していきたいです。

今回は本当にありがとうございました。そして、これからも、よろしく願いいたします。